

C-31 婦人服ベイシック形ドレスにおけるゆとりに関する研究 (第5報)

福山女子短大

増田茅子

(目的)

着用実験より得た各自オリジナル・ベイシック形ドレスの示す各部の基本のゆとりの形態とその寸法を求めることを目的として、既にバスト、アームホール、ショルダークライン、ネックラインについてそれらの結果及び考察を報告した。今回は、被服構成学の立場から着衣基体を区分する線の1つとしてのウエストラインが、着用実験の結果ベイシック形ドレスのウエストラインとして示した寸法及び形態について報告。

(方法)

F短大生106名(平均年齢19才)を被験者として、材料MUSLINを使用したベイシック形ドレスを、JIS・L0102の婦人寸法の各サイズに従って製作し、この着用実験の結果得た各自オリジナル・ベイシック形ドレスのパターンの各部寸法を実測し、各部のゆとりを求める。

(結果)

パターンにおけるウエストライン寸法と採寸最小腹囲寸法の差の平均値 = 1.98 cm、 $S = 2.54$ cm でばらつきが大である。実際寸法ウエストラインの前後の差の平均値 = 2.59 cm、 $S = 1.36$ cm である。パターンにおけるウエストラインの前後の差は、最小腹囲長巾示数とは関係はなく、左右の脇縫目線とウエストラインとの交点を直線で結ぶ線で前後にわけた最小腹囲の前後の形態と大差関係がある。